



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1932, 13(141): 34-37

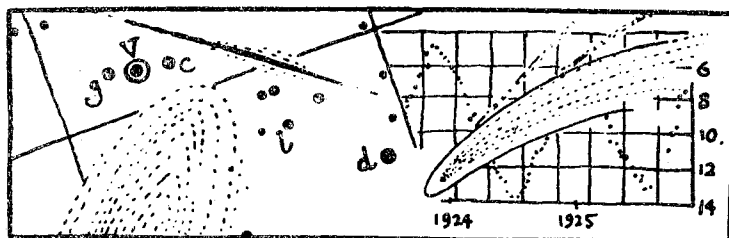
ISSUE DATE:

1932-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162298>

RIGHT:



東亞天文協會觀測部月報

黄道光課報告 (1932年九月)

課長 荒木 兒

この頃の黄道光は暁の東天で、3時——4時、まだ寒いといふ程ではないが、苦しい時刻である。双子座の銀河と離れ切らないので、観測は少し不愉快な点がある。観測の機会は、月明の關係上、月の前半及び月末である。

對日照は今月頃からよく見えるやうになる例である。殊にアメリカ天文學會黄道光課長グランビル先生から観測奨励の書状あり(花山急報第8號)、これに刺戟されて、稀に見る全國的の悪天候であつたにもかかはらず、立派な成績を収め、黄道光よりも優勢な有様であることはよるこばしい。花山急報に毎號對日照の文字が見られるやうになつた。

1. 観測者(ABC順)及び観測回数

観 測 者	観 測 地	黄 道 光	月の黄道光	對 日 照
荒 木 健 兒	倉 敷 天 文 臺			1
淺 野 英 之 助	山 口 縣 長 府 町			1
廣 瀬 永 治 郎	岐 阜 縣 美 濃 町			2
古 畑 正 秋	長 野 縣 岡 谷			1
下 保 茂	札 幌 市 豊 平 町	3		4
坂 元 鐵 馬	福 岡 市 外 箱 崎			3
佐 野 英 生	山 梨 縣 身 延 山		1	2
田 端 實	臺 灣 新 竹 州	1		2
山 田 長	山 口 縣 小 郡	1		1
山 本 一 清	京 都 市 花 山			2

2. 上旬の黄道光

9日に下保君、10日に山口君の観測がある。下保君は興味深い大變化をとらへ、3時10分と25分と二個とられてゐる。殊に消長に於て、薄明のはじまる時刻まで、數回

[illegible]

7. 2日の對日照

山本先生は花山で、稻葉、高城兩氏と共に、夜半スケッチを取られた。形はかなり大きいものである。同夜古畑君も觀測されたが、兩者の記錄に多くの相似點を發見する。東方のバンドは明かである。西方は街火のため不明といふことであつたが、恐らくなかつたのであらう。(花山急報第6號、第7號)

8. 西方 Band の興味

九月は空氣が乾燥するから光帶も明かに見えるのではあるまいか——とは坂元君の御意見である。西方光帶の問題は、觀測時刻が觀測地にもよるであらうが、坂元君は7日夜半後の觀測にも西方の光帶が認められてゐない。下保君は9日の1時40分明瞭な對日照を觀測され、西方にのみ光帶を認め、2時50分に至り東方にも短い光澤を認められた。佐野君は19日に西方にのみわづかに、21日には東西に廣い堂々たるものをとられた。これが20時前後といふかなり早い時刻であることが面白い。臺灣では東西に美しい光帶が見られてゐる。(花山急報第8號)

9. 中心點の位置と變動

廣瀬君は24, 25兩日に變動を認め、特に南北の方向に著しいといふことであるが、對日照の中心の北偏が伴つてゐるのは何等かの關係ではあるまいか。(花山急報第10號)

10. 中心點の位置の東方移動

對日照の中心點の位置は毎日約 1° づつ東に移動することは今更いふまでもないことであるが、下保君は26, 27, 28, の三日、ほぼ同じ時刻に、この東方移動を實に美事に觀測された。これ全く熟練の結果であつて、私はここに聲を高めて讚美したい。(課通信第13號)

11. 30日の對日照の形

30日には4個の觀測があるが、田端君は早く、坂元君は夜半である。淺野君と私はほぼ同じ時刻に偶然の一致を見たが、その形狀及び中心點の位置が非常によく符合し、特に面白いのは對日照の東端の南偏であり、淺野君は黃道から全く南にあつて、かすかな狭い光帶が東につらなつてゐるのを認められた。私は見てゐない。但し、極めて淡かつたのであらう。

12. 九月の對日照の總括論

最も深い經驗を持つてゐるのは下保、坂元、佐野の三君である。黃道光、對日照の觀測回数により、重みをつけて考へてみると、九月の出現はいちじるしく、形は圓形又はそれに近く、下旬になると黃道に沿うて少し橢圓狀になる。大きくひろがつたものが多い。Barnard の觀測に接近してゐる。位置は明かに反太陽點より東に偏してゐる。

13. 對日照と黃道光帶との關係

光帶が或は東に、或は西に見えることから考へると全く對日照とは別物のやうにもあるし、對日照が明るい時に一般に光帶がよく觀測されることから考へると兩者は同一の現象のやうにもある、

14. 薄明中の怪光

大阪府池田町の福井實信君は、20日の日没後薄明中の西天に、淡紅色の廣い光をSketchされた。上部の仰角約 70° 、下部は地平線から數度でスツボリと切れ、薄明でも雲の反射でもないことは明かである。急激な變化があり、18時13分の出現から5分間全く消失するまで注視された。日没後間もなく、且卷雲と積雲とが同時に出現する時あらはれるのが特徴で、氣象と關係のある現象らしいといふことである。（花山急報第11號，課通信第18號）

15. 黃道光課顧問中村要先生の訃

24日急死された中村先生を悼むため、課員一般から感想文を集め、課通信第16, 17, 13の三號にわたつてこれを發表した。（花山急報第10號）

天體觀測上より見たる神戸市に於ける天氣實況

（但し其日の九時と二十一時）

神戸市 改 發 香 嶋

昭和五年度の天氣實況は、天界第十一卷第百十八號に發表して置きました、（百六十四頁）其の後、六年度の發表を怠たつて居りましたが、漸く整理をしましたから、七年度の分と同時に發表いたします。

符號は總て前回と同様であります、新しく御覽下さる諸兄の爲めに、茲にも再記いたして置きます。委しくは天界第百十八卷を御覽下さい。

1930—1931年

